

40年の節目 来月演奏会

く。赤磐の歴史を題材にしたオリジナル曲などを演奏する予定で、会員たちは本番に向け練習に熱を入れている。
(伊東圭一)

赤磐市で誕生し、今年で40年目を迎えた箏曲グループ「絃伶会」(根津章伶会長)は6月4日、中央公民館(同市下市)で節目を記念した演奏会を開

赤磐・箏曲グループ「絃伶会」

絃伶会は1978年、同公民館の講座としてスタート。講師を務めていた根津会長が92年に同市から神奈川県鎌倉市に転居した後、講座生だった赤磐市民が活動を続け、現在は約30人が同市内を拠点に文化祭やお月見会などで演奏している。

同市内での本格的な演奏会は、2004年以来13年ぶり。今回は鎌倉市在住の根津会長や、現地で立ち上げた「鎌倉絃伶会」の会員4人も参加。赤磐市内の尺八や日本舞踊、唄などのグループも賛助出演し、総勢約60人で繰り広げる。

演目は、古墳時代の備前で栄えた豪族の伝説を基に根津会長が作曲した「吉備の稚媛」や、三国志の名場面を題材にした「五丈原」など9曲。一般的な13絃の箏のほか、大きな低音を響かせる17絃の箏も使い、詩舞や朗読なども交えたステージにする。会員らは4月から週1回、中央公民館に

熱い練習に向け本番 独自曲に歴史題材を地元

集まって合同練習を重ねている。根津会長は「赤磐への思いを込めて演奏する。伝統

的な和楽器の世界を楽しんでもらえれば」と話している。
午後1時開演で、入場無料。会場には募金箱を設置し、寄付金は国際医療ボランティアAMD A(本部・岡山市)に贈



合同練習に励む絃伶会の会員ら